安全データシート

SAFETY　DATA　SHEET

SDS ID 番号：000013
ホワイトグリース
作成：2015 年 05 月 11 日
改定: 2024 年 05 月 29 日

本品は JIS Z 7353:2019 に基ずき作成したものです。

SECTION 1　-　製品 及び 会社情報
製品名　：　　ホワイトグリース
化学族　：　　焼付き防止・潤滑剤
当該 SDS 対象商品：　ホワイトグリース

会社名　：　　極東貿易株式会社　東京都千代田区大手町 2-2-1 新大手町ビル 7 階
Tel 03-3244-3846,3878

SECTION 2　-　組成、成分情報
単一製品・混合物の区分　：　混合物
化学名又は一般名　　：　鉱油等の混和物、焼付き防止･潤滑剤

成分名	CAS 番号	重量%
潤滑油基油		80-90
増ちょう剤		10-20
潤滑油添加剤		10%
酸化亜鉛	1314-13-2	1-10
2,6-ジ-tert-ブチル-4-クレゾール	128-37-0	0.2-0.8

危険有害成分
PRTR 法　　該当しない
労働安全衛生法　　酸化亜鉛(第 57 条の 2 通知対象物質)
2,6-ジ-tert-ブチル-4-クレゾール(第 57 条の 2 通知物質対象)
毒物劇物取締法　　該当しない

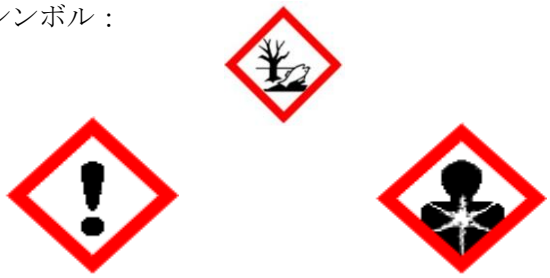
SECTION 3　-　危険有害性の要約

GHS 分類	区分
可燃性固体	区分外
自然発火性固体	区分外
自己発熱性物質	区分外
金属腐食性物質	区分外
急性毒性（経口）	区分外
水生環境有害性（急性）	区分２
水生環境有害性（長期間）	区分２
皮膚感作性	区分１

生殖毒性　　区分 2

GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル：



注意喚起語：　警告

危険有害性情報：　水生生物に毒性
長期的影響により水生生物に毒性
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い

注意書き　安全対策：　全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
眼に入れないこと。飲み込まないこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食または喫煙しないこと。

応急処置：　飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
眼に入った場合:多量の流水で洗眼し､直ちに医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合：多量の水と石鹸で洗うこと。

保管：　直接日光は避け、涼しく換気の良い場所に保管すること。

廃棄：　内容物/容器を国際/国/都道府県/市区町村の規則に従って排気すること。
不明な場合は購入先に相談の上処理すること。

SECTION 4　-　応急処置

接触した場合（皮膚 及び 眼）：

眼：　清浄な水で数分間注意深く洗う。
次にコンタクトレンズを着用していて、容易に外せる場合は外す。
その後も洗浄を続け、最低 15 分間洗浄した後、医師の手当てを受ける。

皮膚：直ちに汚染された衣服を脱ぎ、皮膚を大量の水と石鹸水で洗う。
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯する。

吸入した場合：新鮮な空気の場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。
体を毛布などで覆い、保温して安静を保ち、直ちに医師の手当てを受ける。

摂取した場合：無理に吐かせないで、医師の手当てを受ける。
口の中が汚染されている場合は、水で十分洗う。

SECTION 5　-　火災時の処置

消火剤：	霧状の強化液、粉末、炭酸ガス、泡が有効である。 初期の火災には、粉末、炭酸ガス消火剤を用いる。 大規模火災の際には、泡消火剤を用いて空気を遮断することが有効である。
使ってはならない消火剤：	棒状水の使用は、火災を拡大し危険な場合がある。
火災時の特有の危険有害性：	現在のところ有用な情報なし。
消火方法：	周囲の設備等に散水して冷却する。 火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。
消化を行う者の保護：	消火作業の際は風上から行い、必ず保護具を着用し、皮膚への接触が想定される場合には、不浸透性の保護具及び手袋をを着用する。

SECTION 6　-　漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置：	作業の際には、保護具を着用する。
環境に対する注意事項：	下水道・河川などに流出し、二次災害・環境汚染を起こさない様注意する。 海上の場合、オイルフェンスを展開して拡散を防止し、吸着マット等で吸い取る。
封じ込め及び浄化の方法及び機材：	少量の場合は、ヘラ、スコップ等で除くか、土砂、ウエス等に吸着させ回収し、ウエス等でふき取る。 大量の場合は、漏洩した場所周辺にロープを張るなどして、人の立ち入りを禁止する。漏洩したグリースは土砂等でその流れを止め､安全な場所に導いた後､出来るだけ空容器に回収する。
二次災害の防止策：	漏洩時は、事故の未然防止及び拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。 付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。

SECTION 7　-　取り扱い及び管理上の注意

取扱い

技術的対策：	熱、火花、炎、高温体等との接触を避けるとともに、みだりに蒸気を発散させないこと。禁煙。 皮膚に触れたり、眼に入ったりする可能性のある場合は、保護具を着用する。 ミストが発生する場合は、呼吸器具などを使用して、ミストを吸入しない。
局所排気・全体換気：	室内で取り扱いを行う場合は、十分な換気を行う。
注意事項：	製品から発生した蒸気は空気より重いので、滞留しやすい。
安全取扱注意事項：	ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質と接触しない様注意する。 容器を開ける時は､手を切る恐れがあるので､保護手袋を着用する。

保管

安全な保管条件：　直射日光を避け、涼しく換気の良い場所に保管すること。
熱、スパーク、火炎並びに静電気蓄積を避ける。
ゴミ、水分などの混入防止のため、使用後は密栓して保管する。
保管場所に施錠して保管することが望ましい。
安全な容器包装材料：　容器に圧力をかけない。圧力をかけると破裂することがある。
容器は溶接、加工、穴あけ、または切断を行うと、爆発を伴って残留物が飛散することがあるので注意する。

SECTION 8　-　暴露防止措置及び保護措置
排気管理：　ミストが発生する場合は、発生源の密閉化又は排気装置を設ける。
取扱い場所の近くに、目の洗浄及び身体洗浄のための設備を設置する。

許容濃度　管理濃度：規定なし(作業環境評価基準：労働省告示第 26 号、平成 7 年 3 月 27 日)
許容濃度：日本産業衛生学会
現在のところ有用な情報無し。
ACGIH
短時間暴露許容濃度 STEL 10mg/m^3 (Zinc oxide)
時間荷重平均 TWA 2mg/m^3 (Zinc oxide)
時間荷重平均 TWA 2mg/m^3 (2,6-Di-tert-Butyl-4-Cresol)
呼吸器の保護：　通常必要ないが、必要に応じて防毒マスク(有機ガス用)を着用する。
手の保護：　長期又は繰り返し接触する場合は、耐油性のものを着用する。
目の保護：　飛沫が飛ぶ場合には、普通型眼鏡を着用する。
皮膚保護：　長期間にわたり取扱う場合または触れる場合には、耐油性の長袖作業着等を着用する。
適切な衛生対策：　汚れた衣類は脱ぎ、完全に洗浄してから再使用する。

SECTION 9　-　物理的および化学的性質
製品外観：　半固体、白色、無臭
融点・凝固点：　滴点≧150℃
沸点、初留点及び沸点範囲：　未測定
引火点：　≧200℃　セタ密閉式
自然発火速度：　未測定
燃焼の範囲または爆発範囲：　爆発限界　推定値 1～7%
密度(g/cm^3)：　0.97(25℃)
溶解度：　水に不溶
n-オクタノール/水分配係数：　未測定
分解温度：　未測定

SECTION 10　-　安定性および反応性
反応性、化学的安定性：　常温で暗所に貯蔵・保管された場合、安定である。
危険有害反応可能性：　水との反応性はない。
避けるべき条件：　混触危険物質との接触。長時間加熱、火炎、発火源。
混触危険物質：　ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質と接触しない様に注意する。

強酸化剤
危険有害な分解生成物： 情報無し

SECTION 11 - 有害性情報
急性（短期間）毒性

成分	ラット LD50, 経口	ラット LD50, 皮膚	ラット LC50, 吸入
酸化亜鉛	5000mg/kg 以上(基油)	データなし	データなし

慢性（長期間）毒性およびその他情報
- 基油について、IARC、OSHA、NTP、EU、EPA、ACGIH 及び日本産業衛生学会の発がん性物質のリストに記載されていない。
- 増ちょう剤、添加剤について、発がん性に関する有用な情報はない。
- 吸引性呼吸器有害性に関して混合物については、混合物の分類に基づき、危険有害性の区分を分類した。

SECTION 12 - 環境影響情報
生態毒性に関する混合物については､混合物の分類に基づき､危険有害性の区分を分類した。
慢性毒性に関する混合物については､混合物の分類に基づき､危険有害性の区分を分類した。
残留性、分解性、生体蓄積性、土壌中の移動性なし。

SECTION 13 - 廃棄上の注意
廃棄方法： 事業者は産業廃棄物を自ら処理するか、又は都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。投棄禁止。
埋立処分を行う場合には、あらかじめ焼却設備を用いて焼却し、その燃えがらについては、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令」に定められた基準以下であることを確認しなければならない。
燃焼する場合は、安全な場所で、かつ、燃焼または爆発によって他に危害または損害を及ぼす恐れのない方法で行うと共に、見張り人を付ける。
空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。

SECTION 14 - 運送上の注意
注意事項： Section 7 取扱いおよび管理上の注意に準ずること。
国連分類： 当該品は危険物質として規制されない。
国内規制： 消防法、船舶安全法(個別運送及びばら積み運送において)、航空法の輸送規制には該当しない。
輸送の特定の安全対策及び条件： 容器が著しく摩擦又は動揺を起こさない様に運搬する。

SECTION 15 - その他の法律
安衛法： 名称等を通知すべき有害物
水質汚濁防止法： 油分排出規制
下水道法： 鉱油類排出規制
海洋汚染防止法： 油分排出規制
廃掃法： 産業廃棄物規則

SECTION 16 - その他情報

参考文献等：許容濃度等の勧告(2010)日本産業衛生学会 産業衛生学会誌
米国産業衛生専門家会議(ACGIH) “TLVs and BELs 2010” (2010)
IARC Monographs Programme on the Evaluation of Carcinogenic Risk to Humans(2006)
EC 理事会指令「67/548/EEC」の付属書 I「危険な物質リスト」
日本規格協会(JIS) JIS Z 7250 : 2005 「化学物質等安全データシート(MSDS)」
同上 JIS Z 7251 : 2006 「GHS に基づく化学物質等の表示」

免責文： 安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として取り扱う事業者に提供されるものです。取扱う事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取扱い等の実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いします。従って、本データシートそのものは安全の保証書ではありません。

以 上